

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2023. 12. 8

No.40 文責 荒木秀

高校入試改革③

前号では、アドミッション・ポリシーについて説明してきました。少しはご理解いただけたでしょうか。今回はその先、「前期（特色）選抜」についてです。山形新聞の内容をもう一度載せます。

前期（特色）選抜は、各学校のアドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）に基づいて行われる。個人面接▽集団面接▽作文▽発表▽その他（小論文、実技、口頭試験、学校ごとの学力検査など）の5つから、1～3つを学校が選択する。

県高校教育課は「こういう中学生に来てほしい、との方針を各高校がアドミッション・ポリシーに定めている。これに沿って学校ごとに問うものが変わる」と説明。

現時点のものではありますが、受験内容が示されています。「個人面接」「集団面接」は、よくある感じですかね。「作文」と「小論文」の違いは何でしょう？知り合いの高校の先生と話をしたのですが、「作文」は、テーマについて自分のこれまでの経験等をまとめる。「小論文」は、リード文があって、それについての自分の考えをまとめる。という感じではないかと話してくれました（あくまで個人的見解ですからね）。

「発表」とは何でしょう？これも一高校教師の個人的見解ですが、採点することも考えると、AO入試（自己推薦）のようになるのではないかとのことでした。つまり、中学校でどんなことをがんばってきたのかをプレゼンするということです。大学入試のようになってきましたね。これを機に、中学校の授業も変わってくれることを期待するばかりです。

中学校が変われば、いよいよ小学校も変わらなければなりません。というか、小学校の方がよっぽど変わってきている気がします。先生方のこれまでの取り組みは、まちがいないということです。みなさん、自信をもって続けていきましょう。1つだけポイントを確認するとすれば、先日の「南部っ子」に校長先生も書いて下さっていましたが、「目的意識」や「相手意識」をしっかりと、子どもたちにもたせるということだと思います。

受験のためにと言いたいわけではありません。**自分がかんばったことを、自分の言葉で生き生きと表現（発表）できる子**になってほしい。そして、その結果として、ペーパーだけでなく、子どもたちをいろんな角度からきちんと評価してほしい。そう願うばかりです。